

ダルニー通信

20周年記念ドナーの集いのご案内：17P

20周年記念号

47



まだ東西陣営が冷戦の時代の 1987 年に産声を挙げた日本民際交流センターと地域開発教育基金(EDF＝タイ事務局)は、今年 20 周年を迎えます。1991 年のソ連崩壊で冷戦が終結し、平和の期待に胸を膨らませ、人類の課題である貧困削減に世界が取り組む時代が到来したかのように思えました。しかし、それは一瞬の夢でした。2001 年 9 月 11 日以降、テロとの戦争に突入し、19 世紀を舞台としたトルストイの名作の命題「戦争と平和」は 20 世紀を越えて 21 世紀に持ち越されることになりました。

●浸透した理念

民際センターは、世界政治の予測不可能な変貌の中、「民」の運動の推進、教育を受け地域に貢献する人材の育成という理念を持って 20 年、粛々と運動を維持継続してきました。20 周年記念事業の一環として、1988 年に奨学金を提供した一期生の消息を調査しています。その 1 人は現在、母校の先生になり、ダルニー奨学金の担当教師になっています。この元奨学生は「奨学金があったので出稼ぎに行かずにすんだ。朝 5 時に起床し、自転車で 20 キロの道のりを一日も休まず登校、一所懸命に勉学に励み、生徒会長にもなり、高校、大学に進学し、念願の教師になった」と言います。まさに奨学金の理念に沿った次世代が育ってきたと言えます。時代の流れで大都会に出稼ぎに行き、そのまま定住した層も多くいるようですが、地域の発展に寄与する層も多いと聞いています。このような例からも、選考委員会や教師の努力もあり、ダルニー奨学金は成功し、タイ東北部の風土・文化となり、この 20 年の歳月の中で理念が浸透したと言えるのではないのでしょうか。

●これからの理念

これまでの 20 年は、皆様のご支援のお陰でどうか設立当初の目標が達成されたようです。さて、これからの 20 年を私たちはどのように想定し、何を理念として掲げるべきでしょうか。私は以下のように考えます。まず「国・官」によるものでなく「民」による国際協力の理念、また、支援を受ける国も同様に「民」の主体性を重視すること。そのためには「教育を通して地域に貢献する人材の育成」という



20 年前に会ったダルニーちゃんの写真を手に持つ秋尾

日本民際交流センター代表 秋尾晃正

これまでの二十年、これからの二十年

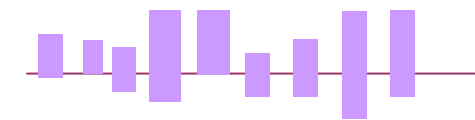
理念が今後益々重要性を増すはずです。一方、地球の温暖化にともなう様々な「災害」が想定されます。異常気象に伴う水害、干ばつが予想されます。「個」の教育支援をしながら、「面」では「民」「教育」のキーワードに「環境・災害」というキーワードを加えて、これからの 20 年の運動が展開できたら幸いと思います。

●各国事務所の連帯構築

20 年前にタイの東北地方のいくつかの村で 41 万円、41 口の奨学金から始まったダルニー運動の輪は、東北 19 県、ラオス、さらにカンボジアへと着実に広がりました。日本生まれの、日本育ちのダルニー運動は海外事務所に日本人の駐在はなく、全て各国の有能な人材の運営に委ねられています。各国の事務所間の「連帯」の証だと思います。45 歳から 20 年間、私は無我夢中で、ダルニー運動を推進して参りました。山あり谷ありの 20 年でした。100% 言える事は 20 年後の 40 周年記念には私がこの運動に携わっている可能性はゼロに等

しいということです。30 周年はどうでしょうか。ただ天のみぞ知るという心境です。新規に加わる国々も今後期待されます。しかし、それも含め「人は変われど、仰ぐは同じき、理想の光」で、人が変わってもこの「理想の光」に向かって各国の事務所が連帯する制度を構築することが私に課せられた使命とも思っています。

最後に心より皆様のご協力に感謝申し上げます。皆様一人ひとりのご協力が今日の発展に繋がっております。有難うございました。そして、今後とも引き続き支援のほど、宜しくお願いいたします。



植民地の歴史とラオスの教育の貧困

知識の蓄積ができず、先生に給料も払えず…

2007 年度ラオス奨学金は新規(小 3)奨学金として 2,500 口(昨年度は 2,410 口)、中学生も含めた全体で 7,895 口(同 6,971 口)を目標として設定し、皆様からのご寄付をお願いしてきましたが、目標数には届かなかったものの、昨年を上回る 7,475 口となりました。ご支援を有難うございました。

●学校で習うのはフランスの歴史や地理

ラオス奨学金をお願いする際、「ラオスは重債務貧困国なので、教育にまわすお金が政府にありません」と説明します。さて、「重債務貧困国」とはどのような国をいうのでしょうか？ IMF(国際通貨基金)と世界銀行の定義によれば、1993 年時点で一人当たり GNP が年間 695 ドル以下で、債務総額が輸出総額の 2.2 倍以上か GNP の 80%以上を占める国のことです。つまり、文字通り貧しく、かつ多大な借金を背負った国を意味します。さらに、ラオスの場合、2005 年 5 月から 1 年間の輸出額は 8.78 億ドル、輸入額は 9.31 億ドルですから収支は赤字で、これに多大な借金の返済が加わりますから、政府には教育に回すお金がほとんどありません。

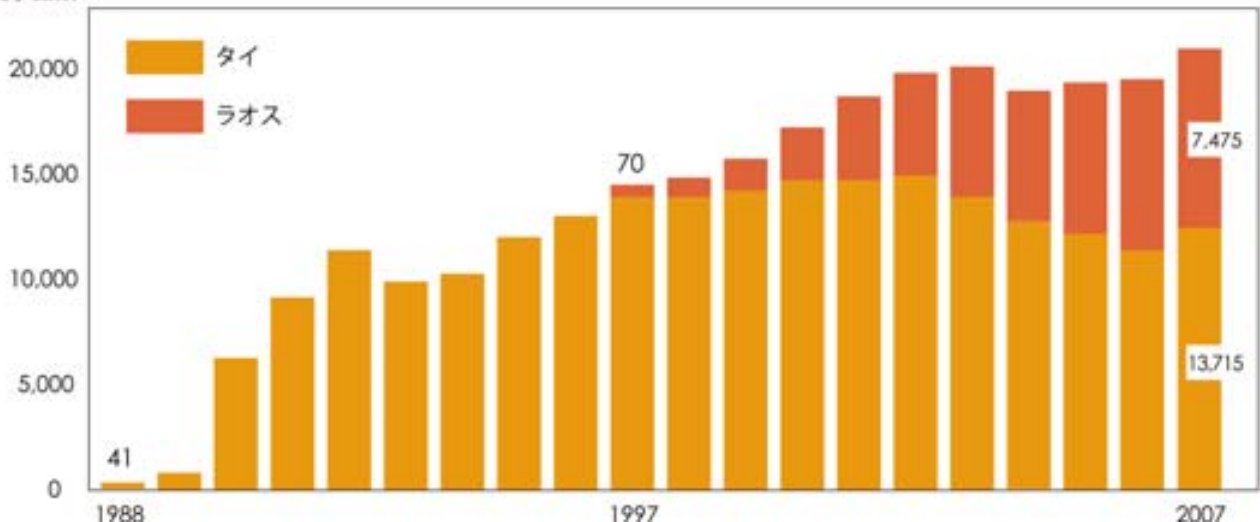
しかしもう一方で、ラオスの教育の貧困は金銭面だけではなく、植民地であったがゆえに知識の蓄積がなされなかったことも大きな影響を受けています。ラオスは 19 世紀末から 1953 年までフランスの植民地でしたが、その植民地政策のため、例えば 3 年制の高校は 1950 年代になっても首都ビエンチャンに

1 校しかありませんでした。この高校はエリート教育のための学校で、フランスの大学に留学するために授業はすべてフランス語、しかも、歴史も地理もフランスの歴史や地理が教えられたそうです。庶民のための教育は、1960 年代から都市や大きな町に小学校が設置され始めましたが、1~3 年生までラオス語、4 年生以降はフランス語による教育が行われたため、3 年で退学する子どもが多かったそうです。また、第 2 次世界大戦後、ラオスを再度植民地化するためフランスが戻ってきて内戦が始まりましたが、ようやくインドシナ戦争が終結、1975 年にラオス人民民主共和国が誕生しました。しかし、教科書を作るための知識が蓄積されておらず、しかも、多くの先生が社会主義政権を嫌い、メコン川を渡ってタイに逃れてしまいました。また、長く続いた内戦で政府にお金がなかったため、独立当初の先生への給料は塩と米だったそうですが、それも先生が国を離れる原因でした。その結果、教員資格のない大人や子どもまでもが先生になりました。このような歴史が現在のラオスの教育に大きな爪痕を残しています。

●5 年生に在籍する生徒は約 6 割

フランスの植民地になったカンボジアも、長い内戦を経験しました。その結果、たくさんの子どもの基礎教育すら受けられない状態が未だに続いています。最新のユニセフの統計によれば、2000 年~2004 年に両国の小学生 1 年生が 5 年生に在席する割合はどちらも約 60%です。農村部では、この割合はもっと低くなるはずですが。それゆえ、最も貧しい家庭の子どもに直接教育支援が届くダルニー奨学金は今後ぜひ必要なのです。このような事情をご理解いただき、引き続き皆様のご支援を宜しくお願いします。

奨学生数



対談 保阪正康氏 (作家) と秋尾晃正 (日本民際交流センター代表)

昭和史と国際協力 —— 昭和から学ぶ国際協力 国ではなく、市民主導の国際協力関係を築くために

今年 20 周年を迎える民際センターは、今後さらに市民レベルでの国際協力や支援活動を盛り上げたいと考えています。そこで、ライフワークとして昭和史に取り組んでいる作家の保阪正康氏に昭和史における日本と東南アジアの関係を中心に話を聞きながら昭和を振り返り、そこから民際センターの今後の活動を盛り上げるヒントを得たいと考え、この座談会を企画しました。



編集 保阪さんは昭和史を調べる上で 4000 人以上の人々から証言を得ています。まず、昭和史に取り組むきっかけと、なぜこんなにも膨大な証言を聞いて歩いたのか、その理由をお聞きしたいのですが。

保阪 私は昭和 14 年に北海道で生まれ、昭和 20 年代に小学校・中学校の教育、30 年代に高校・大学教育を受けた世代です。戦後の新しい教育では旧体制の価値観がすべて否定され、上の世代が使っていた教科書は全部破棄されました。そして、濃淡はありますが、大学で左翼体験をします。左翼の歴史の見方は、ざっぱく言い方ですが、「社会主義になればすべてが解決する」とか、「人類史は社会主義に向かって進んでいく」とかとパターン化されています。しかし、これでは、史実がこうした歴史観を証明するためのツール (道具) になり、人間がその道具の部分になってしまいます。また、インテリやある種の知的な人々は日本の近現代史を語る際、「日本帝国主義は」とか「日本軍部は」とかと言いますが、編集の仕事をしていた 30 代前半の頃、私は「日本帝国主義や軍部とは一体何だろう？その当時の人々は何を考えていたのか」と考えるようになりました。そして、パターン化した歴史観ではなく、一人ひとりから証言を聞き、事実を集めて史実をつかむ必要があると感じました。と同時に、聞き書きの方法で昭和史を調べることで、私の左翼体験を克服することができると考えました。

保阪正康氏のプロフィール

1939 年北海道生まれ。日本文藝家協会、日本ペンクラブ、日本エッセイスト・クラブの会員。一連の昭和史研究で 2004 年に菊池寛賞受賞。主要作品に『昭和陸軍の研究 (上下)』(朝日新聞社)、『昭和史 7 つの謎』(講談社文庫)、『あの戦争は何だったのか』(新潮新書) 他

昭和史に取り組むもう 1 つの理由があります。聞き書きをする過程で、日本人の資料の残し方にかなり問題があることに気が付きました。ポツダム宣言を受諾してから、日本政府は資料を全部燃やせ、という命令を出し、8 月 14 日夕方から 15 日にかけて、すべての行政組織の末端から煙が出ていました。私は欧米で資料を調べることがありますが、欧米では、たとえ自分に都合の悪い資料でもちゃんと残っていて、後々公開します。もう 1 つの例として、ソ連が崩壊してから、資料を得ようと日本の研究者がどつとモスクワに行きました。私も雑誌の連載をしていた関係で 1990 年に行きましたが、日本語のできるソ連の研究者が日本関連の資料をばら売りしていました。ばら売りされた資料を購入しているのは日本人だけです。欧米は体系的に資料を集めています。例えば、アメリカのエル大学はソ連の第 1 回から 70 数回のソ連共産党大会の資料のコピーを全部購入していて、2030 年に自由主義国から見た共産主義国家についての分析が出ると言われています。

私は、62 年と 2 週間も続いた昭和という時代は、人類史が経験したことがすべて含まれていると思います。戦争、植民地支配、被占領、昭和初期の農村の貧困も昭和末期の飽食の時代もありました。だから、時間が経てば経つほど、新しいテーマが出てきます。私は、後世の人々から「なぜあんな戦争をしたのか？昭和とは何だったのか？そのとき、人々は何を考えていたのか？」と問われるときが必ず来ると思います。そのとき、生の証言が必要ではないか。それが歴史を語り継ぐことだと思っています。

●蔑視感と主観的善意

秋尾 先ほど、「日本の帝国主義とは何か」と言われました。民際が支援しているラオスやカンボジア等の途上国は欧米の植民地支配を受け、統治能力を備えた社会層の教育制度が壊され、その影響が今でも残って社会の指導的な人材が育たなかった。ところが、日本が植民地支配をした韓国や台湾は、その後、経済成長を遂げました。日本の植民地支配を正当化するつもりはありませんが、日本と欧米の植民地下での教育政策のあり方が違うように思いますが……。

保阪 近代日本は「脱亜入欧」を掲げ、西洋の技術やシステムを取り入れて猛烈なスピードで近代化を

作家の保阪正康氏



達成しました。さらに、西欧を真似て近隣諸国を植民地にしたわけですが、日本は近代化を達成した自負から、近代化できず、西欧の植民地になったアジアに対して蔑視感を持っていました。だから、朝鮮や台湾などの植民地に近代、つまり、鉄道や道路、学校をつくり、昭和になって、それらの学校で現地の人に日本の軍国主義思想を教えたわけでしょう。だから、確かにハード面はそれなりに作りましたが、ソフト面は批判されなければならないと思います。それを前置きした上で、しかし、そこに主観主義的な善意のようなものがあつたのも事実だと思います。その一例を、東南アジアで日本の学徒兵が行った事を例に考えてみると、昭和 6 年の満州事変で日本が国際的に孤立しますが、その後、昭和 13、14 年頃、国際的に孤立した日本が盟主となって大アジアブロックを形成するという「東亜新秩序」という考え方が出てきます。この考えの中に、西欧と対抗するために中国との連携を唱える人々や、東亜の解放、つまり西欧の植民地になっているアジアを植民地支配から解放するために西欧と戦おうとする人々がいました。これらの考えに共通するのは「アジアは遅れている」ということで、それが大東亜共栄圏という考えに収斂し、資源の略奪に行ってしまったのです。しかし、日本が東南アジアで戦争を行った瞬間は、中国との連携や植民地からの解放を考えていた人々がたくさんいました。だから、8 月 15 日に戦争が終わった瞬間、例えば、インドネシアでは学徒兵の中に「このまま武器を放棄して連合軍が再度この地に入ってくるとなると、我々が東亜の解放のために戦ったのは一体何だったのか」と考え、軍の命令に反して、そのままインドネシア解放軍に参加します。ベトナムやビルマにもいます。全体で 3000 人もいなかったと思いますが。彼らには、先ほど言った「主観的な善意」があつたと言えます。

民際センター代表の秋尾晃正



●臣民意識の涵養

秋尾 日本には大正時代にいわゆる「大正デモクラシー」がありましたが、昭和になって消えてしまいました。なぜ昭和で消えてしまったのでしょうか？ また、「東亜の解放」という主観的な善意と大正デモクラシーと何か関係がありますか。

保阪 昭和 6 年の満州事変で日本が国際的に孤立したため、昭和 7、8 年頃から日本は大きく変わります。例えば、国定教科書ががらりと変わり、「進め、進め、兵隊さん進め」が登場します。また、日本人は天皇の赤子であるという皇国民教育の傾向が強まります。もう 1 つ、共産党の 2 人の幹部の転向をきっかけに共産党員が雪崩れをうって転向し、共産主義者がいなくなり、次に自由主義者が弾圧されました。国家を改革するのに、西欧理論を否定したわけですが、これは、日本は天皇を戴く特別な国であり、君主＝天皇のもとですでに君主改革を行っている、だから国民は臣民として自覚を持て、という、いわゆる「臣民意識の涵養運動」だったと思います。これは、大正デモクラシーとは正反対の内容を持った思想運動でした。こうしたことが昭和 7 年頃から 14、15 年頃の間に凝縮して起こりました。しかし、私の父のように、大正期にデモクラシー教育を受けた世代は、戦争中もリベラルな考えを持ち、天皇が神であるという偏狭な考え方をもっていませんでした。彼らが戦争中に、例えば、先生として学校で皇国民教育を教えたのは、いわば擬態で、戦後に民主主義教育に転換したのは、元に戻ったということだと思います。ただ、旧制高校・大学で大正デモクラシー教育を受けたのは 3% ぐらいで、多くの人は小・中学校を出てから農村などで厳しい労働をしていました。彼らが戦争中は国家の要求する人間になってしまったわけです。

●広がらない市民としての意識、なぜ

秋尾 戦後に話を進めますが、援助という観点から戦後を見ると、敗戦直後、まず米国からガリロアやララ物資などが来て援助を受けます。1960 年頃に始まる高度成長を経て経済大国になると ODA という形で国が援助をする側になって行きます。この間、国内では安保闘争などの学生運動や労働運動、公害反対などの市民運動がありましたが、海外での援助は国主導で、80 年代になってカンボジア難民を支援することで、ようやく市民が海外援助を始めます。それから 20 年以上の年月が経ちますが、海外援助は相変わらず国主導です。現在、ODA の予算は約 7000 億円ですが、NGO 全体の予算は約 270 億円です。

保阪 戦後の援助の問題については、詳しく知らないのですが、日本が経済的に潤った理由は、米国の支援や朝鮮戦争による特需という幸運もあり、さらに他国が日本製品を買ってくれるという他国との関係が成立して初めて達成できたという面もあると思うのです。だから、日本の富を国内だけで享受してよいとは思えません。それで ODA として他国を援助していますが、そのお金の一部が日本に還元され、日本の利益になるのを見ると、本来、援助は善意を基盤にするはずですが、そうではなく、日本人は自らの勤勉さで経済成長を達成したというエゴイズムの論理があるように思えます。他国の経済発展を支援する際、日本はその支援メカニズムはすぐ作るのですが、そのメカニズムを支える思想・文化的価値観はまだ確立していないという印象を持ちます。

秋尾 インドネシアの NGO と話をした際、もし日本の NGO がもっとずっと大きくて、そして対話をしていたら、ある意味で ODA に支えられていたとも言えるスハルト政権はできなかったのではないかと言っていました。また、なぜ日本市民からの援助が少ないのか、と問われました。

保阪 日本と東・東南アジアの市民と市民の関係を成立させるには、まず戦争の影を消す必要があるのではないのでしょうか。例えば、戦友会の中には、東南アジアで死んだ日本人のために現地の行政庁にお金を出して「第何々連隊の誰々君、ここに眠る」という碑を建て、現地の人に管理を頼む。これは戦争の反省も無い、まったく自分本位な行為です。しかし、これが傲慢な行為であることが、彼らにはわからないのです。これでは、国際間の市民と市民の関係はできません。

秋尾 民際センターが支援をしているタイとラオスは戦争中、日本軍との激しい交戦はほとんどなかったもので、他の国よりも日本人に親近感を持っており、支援もしやすい国です。にもかかわらず、日本人の

中に支援があまり広がっていきません。

保阪 日本人の中に、支援に見返りを求める心理があるのかもしれませんが。もう 1 つの理由として、近代への到達感、つまり、便利・速い・何でも揃っている、こうした到達度が高いほど善という考えを持ち、遅れている国に対して、日本人はある種の軽侮感を持ってしまうのかもしれませんが。他国の市民との間に援助関係が成立するには、まだまだ時間がかかるのではないのでしょうか。私は昭和史を専門にやっていて言えることは、短期間で物事を解決したことで良い結果になったことはない、ということです。だから秋尾さんが死んで(笑)、何代が経ってから良くなるのではないのでしょうか。時間のスケールを持つことが大切だと思います。

秋尾 これからの 20 年という時間のスケールで、日本人が国際的や視野を持った市民になることはできるでしょうか？

保阪 比較で言うと、中国や韓国よりは可能だと思います。援助というのは、ある一定以上のお金の手元にあったら、それを困っている人に回すという思想や価値判断でしょう。日本人はそういうことをする文化的素養があると思いますが、中国は、私は中国をかなり知っていると思いますが、自分で儲けたお金を他国の困っている人のために無償で提供することはしないのではないのでしょうか。

秋尾 民際のドナーに若者が少ないのが気にかかっているのですが、「市民」という観点から今の若者をどのように見ていますか。

保阪 今の若い人に半分希望し、半分絶望しています。私は立教大学で講座を持っていますが、優秀な学生から「先生は『自虐史観』ですね」と言われることがあります。こうした学生に私は「君、『自虐史観』なんて言うなよ、『自省史観』と言えよ」と教える論じますが、なぜ学生がそのように言うかと言うと、本屋に行けばナショナリズムを煽るような本ばかり並んでいて、真面目で純粋な学生がそうした本ばかり読んでいるからでしょう。市民というのは、社会を重層的に見る目を持つ必要があると思いますが、この本屋が示している状況では、市民が育つことは難しい。しかし、その一方で、今の若者はどんどん海外に留学に行き、外国語を身につけて帰ってきます。それで外国人と話すことに怖気づかないし、自分の考えを平気でぶつける。これは、私たちの時代に比べ、グローバルな市民になる環境が整っていると言えます。

秋尾 20 周年を機に、日本人が国に任せるのではなく市民として自ら国際支援活動に貢献できるように、ダルニー運動や「ダルニー通信」の紙面づくりを積極的に進めていきたいと思っています。

ダルニー奨学金 20 年の証明 ―― 初代奨学生は今

日本民際交流センターの事務所の壁にかかっている 1 枚のセピア色の写真（写真下）、緊張した 10 人の顔と 20 の真剣な瞳がこちらを見つめています。今から 20 年ほど前の最初のダルニー奨学生 41 名のうちの 10 名の集合写真です。学校ごとか地域ごとに撮ったのでしょうか。残念ながら、41 人揃った写真はみあたりません。



写真の子どもたち、いや失礼、今ではもう 30 代のはずですが、彼ら／彼女らはどうしているだろうか、とふと考えます。人生は人それぞれ。まづもって皆、幸せに生活し働いていていれば、と願うばかりです。

うれしいことに 20 周年を機に、タイ事務局は初代奨学生 of 消息を奨学生の故郷ウドンターニー県を訪ね、幾名かの情報を得ることができました。ここに 3 人の例を挙げ、ダルニー奨学金がどんな役割を果たしたかをご覧いただきたいと思います。

● 1 人目：ワッタナポーン・ヤンサブ

イシヤマさんの奨学金のおかげで勉強を続けることができた彼は、中学を卒業した後、職業訓練校へ通うことができました。エンジニアとして台湾



に出稼ぎに行き安定した収入を得られたのも、勉強を続けられたからと感謝しています。必死になって働いた後、バンコクに貸家を持てるようにも

なりました。今は母親の面倒をみるため、故郷のウドンターニーに戻り、村で青少年を麻薬の害から守る会の会長としても活躍しています。

● 2 人目：ナロン・インワンスク

ワタナベさんの奨学金で中学就学の夢が叶った彼女は苦学の末、地元ウドンターニーの大学を卒業することもできました。今はウドンターニー市の幼稚園の教員として、そして 2 児の母として充実した日々を送っています。



「今の私があるのは、私に閉ざされていた教育への扉を開いてくれた人がいたからと思います」と彼女は語ります。せめてもの恩返しと彼女は今、村の委員を務めると同時に村の助け合い基金を担当し、村のためにも活躍しています。

● 3 人目：パツハリン・ドンジャレーン

ヨドカワさん、ユメダさん、ナトリさんからそれぞれ 1 年づつ奨学金の提供を受けた彼女は、現在サムプラカー



ンの会社で品質管理オフィサーとしてがんばって働いています。彼女は経済的に故郷の家族を支えることができ嬉しと語ります。時には友達とともに募金して、村の学校へ寄付の仕送りをしています。彼女もきっと故郷の学校で友達と一緒に勉強し、また楽しく過ごした日々を大切に思っているに違いありません。

以上、3 人の元奨学生（1 期生）の現在を紹介しました。それぞれの人生ながら、教育への思い、他者への共感・やさしさがこの 3 人に共通しているように思えます。

元奨学生からの手紙

「奨学金がなかったら、今日の私はなかったでしょう」

タイ事務所を通して感謝のメール

現在、県の職員として働いているアドゥルさんは、家に保管してあった奨学金授与証書を見てドナーへの感謝の手紙を書きたくなり、インターネットを通じて探したタイ事務局（EDF）に以下の内容の E メールを送ってきました。

久保田千春 様

私はアドゥル・マッカオです。現在、タイ東北地方ヤソートン県のナソ村に住んでいます。私は 1994 年～1996 年の 3 年間、久保田様から毎年、奨学金を受けていた元奨学生です。私はナソ校に通っていた 3 年間、久保田様からの奨学金で学校に通うことが出来ましたが、その支援に対して心からのお礼が言いたくて、この手紙を書きました。もし久保田様からの奨学金がなかったら、それ以後の教育は受けられなかったし、今日の私はなかったでしょう。

私の家はとても貧しかったので、兄は中学校に通えなかったのですが、私は奨学金をもらえたので学校に通えました。奨学金がもらえると知ったときは本当に嬉しかったのを覚えています。また、奨学金のお金を引き出すために、先生と 2 人で銀行に行ったことも覚えています。制服や学用品を買うために、最初は 500 バーツずつ引き出していましたが、成績が上がり、その結果、特待生として、これらの学用品が学校から無料で支給されるようになると、先生と相談して高校進学に備えて使わないで貯めることにしました。そして成績が 3.85（タイの中学は 4 段階評価）で中学校を卒業しました。

高校は村と同じ郡にあるグッチュムウィッタヤコム校に行きました。しかし、学校をやめなければならなくなりました。というのも、私の兄が深く尊敬している僧が病気になったのですが、誰も看護をする人がいなかったのので、兄と 2 人でヤソートン県の中心部に移らなければならなかったからです。そこで、市内にある同県最難関のヤソートン・ピッタヤコム高校を受験することにし、合格しました。両親や先生は私の合格をとても喜んでくれました。なぜなら、私の中学校からこの高校に行った生徒は、私が初めてだったからです。

高校を卒業後、ブリーラム・ラジャバット大学に



現在、県職員として働いているアドゥルさん

行き、そこで畜産を専攻しました。1 年間だけ月 1,000 バーツの奨学金をもらいながら勉強し、2004 年に卒業しました。現在、年契約でヤソートン県畜産課の職員として働いています。

最後になりますが、いつの日か、今日の私を育ててくれた久保田さんとお会いしたい、などと夢見ています。直接お会いして、お礼の言葉を述べたい。また、久保田さんの日本での生活の様子もお聞きしたい。私の夢が実現するとよいのですが……。では失礼いたします。

久保田千春さんからの返信

通学姿を想像して私自身も元気が出ます

アドゥル・マッカオ様

思いがけないお手紙をありがとうございました。10 年以上も前の支援に対しての心のこもった礼状をいただき、大変嬉しく思っています。

20 年近く前に新聞に載った小さな記事をきっかけに参加したダルニー奨学金ですが、毎年奨学生が決定すると送られてくる写真を見ながら、遠い暑い国の子ども達のことを考えています。あどけない写真のこの少年少女たちが、学校までの遠い道のりを瞳を輝かせて歩いているのだと思うと、私自身も元気が出るものです。お手紙を拝見し、先生と 2 人で銀行に向かって歩くあなたの姿が目には浮かぶようで、今まで以上に奨学生の皆さんを身近に感じる事ができました。自分にできることは彼らの人生のほんのひととき、ほんのささやかな支援にすぎませんが、それでもそれがあなたの現在の人生のきっかけになったとしたら、私にとってもこれ以上の喜びはありません。

ご苦労と努力の結果、畜産という人々の生活を大地から支える分野のお仕事を選び、公務員としてお勤めということですね。なにかと不安や混乱ばかりが喧伝されるこの 21 世紀ですが、あなたのような真摯な姿勢の青年がこれからのタイというお国やさらに広く世界の進む道を担っていかれるのだと思うと、しみじみ嬉しく思います。どうかお体に気をつけて、仕事に励みご家庭を守り、充実した毎日をお過ごし下さい。ご活躍を遠い日本からお祈りしています。

タイ・ラオス・カンボジアの学校はこんなシステムです

3カ国の学校の一般的な年間スケジュール、時間割、制服、成績

日頃、ご支援いただいているタイ（中学校 3 年間）・ラオス（小学校 3～5 年）・カンボジア（小学校 4～6 年）の奨学生がどんな教育システムのもとで勉強しているか、皆さん、ご存知でしょうか？ 例えば、どのような教科があるのか？ 成績はどのようにつけられるのか？ 1 年にいくつの学期があり、各学期はいつ始まり、いつ終わるのか？ このような質問に答えるため、奨学生が通う上記 3 カ国の一般的な中学校（タイ）・小学校（ラオス・カンボジア）の教育システムについて簡単にまとめてみました。

タイでは 1999 年度から小学校の 6 年間に加え中学校 3 年間で義務教育化されました。そのため、小中が同じ学校、すなわち、小学校に中学校が増設されたケースが多いようです。時間割でユニークな点は、必修としての音楽や体育が時間数 1 しかなく（体育、音楽、コンピュータなどは自由選択科目に入っています）、同じ必修時間数 1 で技術・職業が入っていることです。この時間には、有機農業、理髪、竹細工など、卒業後に即収入につながる実践的な技術を習得します。また、長期休みが農繁期と重なっていて、長期休暇には種まき、短期休暇は収穫の手伝いをする生徒が多いようです。その期間、出稼ぎに出ている親と暮らすため、都会に行く生徒もいます。



タイの中学校の制服

1 年のスケジュール

5 月 15 日～9 月 30 日 : 1 学期（5 月に新年度のスタート）
 10 月 1 日～10 月 31 日 : 短期休暇
 11 月 1 日～2 月 15 日 : 2 学期
 2 月 15 日～5 月 14 日 : 長期休暇

タイ
中学校

教科	時間/週
国語（タイ語）	4
数学	4
科学	4
芸術	1
社会	2
保健（健康について）	1
技術・職業	1
外国語	3
ボーイ・ガールスカウト	2
自由選択科目	4～5



左から体操着（男女同じ）、ボーイスカウト、ガールスカウトの制服

成績のつけ方：教育の地方分権化が進み、学校によって違いが出ています。学期は前期と後期の 2 期制で、各学期に成績を出す学校と年 1 回の学校があります。成績は最近 4 段階から 8 段階に変わり（最高 4 は同じだが 1 単位から 0.5 単位になった）、各学期の試験（中間と期末）に小テストや宿題、日頃の学習態度などが加味されます。成績が悪い場合、何度もテストをさせてできるだけ落第をさせないようにしています。

ラオス 小 学 校 3-5 年

ラオスの義務教育は小学校までで、小学校は5年制です。ある学校の時間割を右に掲載しましたが、その特徴は理科の時間がないことと給食時間が長いことです。本号3ページでも触れましたが、科学の知識の蓄積が不十分なため小学校レベルで理科を教える知識が教員にないことや学校に実験器具がないこと等が理由として挙げられます。給食時間が長いのは、都市部の私立の学校を除いて、普通の小学校には給食がなく、家に帰って昼食を食べる生徒が多いからです。課外活動では、音楽（踊り）や体育のほか、掃除や教材作り（教科書がないので、教科書をノートに写す作業）などをします。

1 年のスケジュール

9月1日～1月24日 : 1学期 (9月1日が新年度のスタート)
1月25日～1月31日 : 期末試験 (その後1週間の試験休み)
2月第2週～5月24日 : 2学期
5月25日～5月31日 : 期末試験
6月1日～8月31日 : 長期休み

	月	火	水	木	金
08:00～08:50	ホームルーム	算数	社会	算数	算数
09:00～09:40	社会	算数	社会	算数	算数
10:00～10:50	国語	国語	国語	国語	技術
11:00～11:40	国語	国語	国語	国語	芸術
昼食					
13:30～14:20	音楽	体育	技術	体育	1週間の反省
14:30～15:10	課 外 活 動				
15:30～16:30	課 外 活 動				

成績のつけ方

成績は10段階で、成績表は1年に1回。A（日常の小テストや出席率、日頃の行動、宿題などを月ごとに点数化）+ B（1学期の期末テスト）+ C（2学期の期末テスト）を勘案して各教科の成績を出す。全教科の平均で5を下回ると再度の試験を行い、その成績が悪いと進級できない場合があります。



ラオスの一般的な制服（左）と奨学金で支給する学用品一式（右）。上はラオスでよく見られる、村人が作った校舎



民際グループ沿革史

1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1995	1996
● 北海道民際交流センター（今の前身）設立 ● ダルニーちゃんとの出会い	● 名称を変更 ● 日本民際交流センターに	● 研修旅行スタート ● 第1回奨学金提供・授与式	● 朝日新聞に記事が掲載され、支援者が大幅に増加 ● 「ダルニー通信」創刊 ● 対象県を7県に拡大	● タイ事務局（EDF）の財団化	● 書き損じはがきキャンペーン開始 ● 奨学金1万口突破	● 対象県を16県に拡大	● ラオス政府が奨学金事業を認可	● ドナー連絡会発足 ● ラオス事務局開設

カンボジア

小学校 4-6 年生

カンボジアの義務教育は小学校までで、小学校は 6 年制です。右は小学校の年間スケジュールと、ある小学校の時間割です。学校の数も先生の数も少ないので、授業は 1 日 2 回、午前と午後に分かれます。時間割の特徴は、国語（クメール語）が 10 時間もあることです。内戦の混乱からの復興期にある同国では、国語（自国語）を重点的に勉強することで、カンボジア人としての意識を高め、国の統一を安定させる必要があるのかもしれませんが。下の写真は典型的な制服（左）と体操着（右）です。運動靴ではなく、サンダルを履いています。スポーツはサッカーとバレーボールが人気です。

1 年のスケジュール

10 月 1 日～2 月 28 日：1 学期（10 月 1 日が新年度のスタート、3 月 1 日～7 月 30 日：2 学期 1 日の休みもなく次学期へ）
4 月 6 日～4 月 20 日：短期休み
8 月 1 日～9 月 30 日：長期休み

	月	火	水	木	金	土
13:00-13:55	国語	国語	社会	国語	国語	理科
14:05-14:55	社会	国語	算数	国語	国語	国語
15:05-15:55	算数	算数	理科	算数	算数	算数
16:05-16:55	国語	社会	国語	技術家庭・体育	社会	社会
16:55-17:00	国 歌 斉 唱					

成績のつけ方

成績は 10 段階で、成績表は 1 年に 1 回。A（日常の小テストや出席率、日頃の行動、宿題などを月ごとに点数化）+ B（1 学期の期末テスト）+ C（2 学期の期末テスト）を勘案して各教科の成績を出します。全教科の平均で 5 を下回ると進級できません。



左から小学生男子・女子の一般的な制服、右上は体操着（男女とも同じ）、下は一般的な校舎。カンボジアでは校舎建設を支援している NGO が多く、各学年に少なくとも 1 教室があるような校舎が多く見られる

1997 1999 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007

- 1997 ラオス小学校校舎建設事業開始
- 1999 対象拡大
● 奨学金東北地方全 19 県に開始
- 2001 為替差益事業開始
- 2002 東京・銀座でラオス写真展開催
● 15 周年事業で 2 人の元奨学生が来日
- 2003 ラオスで保健衛生事業がスタート
● カンボジア奨学金のパイロット事業開始
- 2004 奨学金 2 万口突破
● カンボジア奨学金のパイロット事業開始（現在、アフガニスタン奨学金のパイロット中止）
- 2005 スマトラ沖津波被災家族にに対し、支援活動
- 2006 タイブリヂストン社の支援
● 自転車プロジェクトに、
- 2007 カンボジア奨学金が正規事業に
● ラオス校舎建設 20 校突破
● 民際グループ 20 周年

長年支援ドナーのきっかけ・継続理由・奨学生への思い

★赤座美代子さん (女優) [1990 年から支援]

1人でも多くの子どもたちに学ぶ喜びを

アジアを旅するのが好きで、年に2、3度訪ねているのですが、どの国も何処か懐かし、食べ物や生活習慣・音楽までもが温かくて優しい。自分と同じアジアの魂のようなものが感じられて興味が尽きません。

そしてどの国も近年めざましい経済発展を遂げ、何年か振りに行くと、かつての高度経済成長期の東京の勢いを凌ぐほどです。が、一步都会を離れるとその貧しさは以前と変わらず、むしろ都市部との格差に胸が痛みます。

私がダルニーと出会ったのは、1990 年多分新聞記事からだと思います。私は生後間もなく父をかの戦争で、母を病気で亡くしたのですが、幸いにも十分な教育を受けることが出来ました。ですから、1 人でも多くの子どもたちに学ぶ喜びを味あわせてあげたい。未来を担う子どもたちが聡明で知性をそなえれば、それはきっと飢えや戦争を無くす一番の方法だと思うから。



大好きなアジアの地を訪ねた際の赤座さん

★西谷肇さん [1989 年から支援]

ダルニーの旅にいてみんな (民際)

新聞で秋尾さんとダルニーちゃんの話を読んだのがキッカで、自分もお手伝いできるのではという気持ちから参加しました。細く長くという聞こえはいいですが、実は気が向いた時だけといういいかげんな随時でのお手伝いです。

数年前にラオスの旅に息子と参加しました。アジアの子どもたちの現状がよく理解できました。子ども達と一緒に遊んだこと、村を挙げて歓迎してくれたこと、参加された方々のダルニーとのかかわりを知ったことと収穫の多い旅でした。まだ支援だけでダルニーの旅に未参加の方々にはぜひオススメの旅です。息子が今では私より強力なダルニー支援者となったことは私の秘かな喜びです。

アメリカの新聞広告に慰安婦と日本政府は無関係であると宣伝する日本。比較にはなりません、民際の「私もあなたもダルニー支援を」の新聞広告の方がずっとずっとすばらしいのでぜひ載せてはいがかりでしょうか？ 戦争でアジアに大きな苦しみを与えた側としてこれからもアジア支援を続けたいと思います。さらに個人レベルでも知人に広めることを心がけましょう。今後、日本とアジアの子ども達同士の主体的交流を民際が援助・推進するのはどうでしょう。「夏休み日本とラオスの子ども達の交換ホームステイ」企画？ ぜひお手伝いしたいです。



ラオス研修旅行の際の西谷肇さんとご子息の直浩さん(写真左)
折り紙の鶴の折り方をラオス児童に教える直浩さん(写真右)

★木村嶺子さん [1990年から支援]

現地訪問で、学校校舎や保健衛生へと支援が広がって

1年に1万円の奨学金支援の新聞記事を見て、送金してから早17年にもなります。その頃、私は長岡技術科学大学へ来ていた留学生たちのお世話をしていた2年目で、東南アジアからの学生が主でしたので、民際の記事に関心があつたのでした。タイ東北部(イサーン)の奨学生と日本にいる留学生との違いが知りたくて、1996年イサーンへの研修旅行に参加し、その折にラオス人のティックさんに(ラオス事務局責任者) 出会いました。彼女からラオスはタイよりずっと貧しくて校舎すらないとの話を聞き信じられない思いでした。

その翌年、息子が運良く国立大学に入学できたので、私学進学用に蓄えていたお金を、校舎建設に役立てようと申し出ました。校舎完成時には、息子は大学4年生になっており、二人で竣工式に参加しました。完成までに随分時間がかかっているの心配で、途中でラオスからの留学生に付き添ってもらって、現場を見に行っていたのですが、その時はまだ影も形もありませんでしたので、寄贈式には感激と共に安堵いたしました。

その後の支援活動は、自分が医者で、田舎で開業していることもあって、「健康あつての勉強」だとの思いが強くなり、プーンライ保健衛生プロジェクトにも資金援助をしています。資金の一部には、患者さんから時折いただくお礼を「ラオスの子どもの健康のために使わせてもらうからね」と言って回しています。

自分が出来る範囲での援助をこれからも続けたいと思いますが、そのよりどころである、日本民際交流センターが健全でいつまでも存在していることを切に願っております。



寄贈した学校の竣工式に参加する
木村さんと息子さん。2000年3月
ラオスカムアン県ノーンホイ村

タイ奨学生の卒業式に出席！

ドナーの佐藤憲司さんが、文通を続けてきたタイの現役奨学生（高校生）を 2005 年に日本に招待し（初対面！）、交流した様子はダルニー通信 40 号と 41 号で紹介しましたが、その佐藤さんが今年 3 月、奨学生の卒業式に出席するためタイ・マハーサラカーム県を訪問。それも親戚縁者含め計 8 人で！ 佐藤さん以外タイは初めてという 17 歳の高校生から 65 歳までの男女で出席し、これをきっかけに新たなドナーも誕生！

【卒業式に出席した佐藤さんの体験談】

2001 年から中学の奨学金支援を開始したワナパーさんに高校への支援も決めた時、6 年間の締め括りとして卒業式には必ず出席すると考えていました。

卒業式前日の 3 月 16 日にバンコク到着。運転手付きワゴンを借りて、同日夜 7 時 30 分にバンコクを出発し、マハーサラカームに到着したのが翌日の午前 1 時 30 分。3 月 17 日、マハーサラカームのホテルで卒業式が行なわれましたが、なんと卒業生は約 1000 人！卒業生一人ひとりに卒業証書を渡していたのには驚きました。私もワナパーさんに奨学金支援をしたということで感謝状を頂き、大変感激しました。

当日、私はタイ語で手紙を書き（注：佐藤さんは通信教育でタイ語を勉強）、ワナパーさんに渡しました。

『卒業おめでとう。今ここに私とワナパーさんがいるのが夢のようです。私はワナパーさんに生きる希望をもらい感謝しています。これからも自分に自信を持ってしっかりと前を見て生きていてください。そして、ご両親、家族、地域の皆さんに感謝してください。ワナパーさんと家族の幸せを願っています』。

私は実際、ワナパーさんに多くのことを学びました。誠意を持って、対等の立場で、見返りを求めず、感謝の心を忘れず、人に対応することの大切さです。私はドナーになって本当に良かったと思います。



後列右から 2 番目の男性が佐藤さん、前列右端がワナパーさん

【ワナパーさんから佐藤さんへの思い】

この日を迎えることができて、お父さん（佐藤さん）にとっても感謝しています。お父さんの支援と応援があったからこそ、私は卒業することができ、これからさらに成長して、より良い人となれと信じています。お父さんは本当に良い人です。ご恩を絶対忘れず、一生敬い続けます。

【一緒に出席した佐藤さんの親戚の感想】

一言で感想を述べるのであれば、貧富の差が非常に大きく感じました。実際、卒業したワナパーさんの家を訪ねた際、ところどころ壁や床に穴があき、水回りも整備されていない環境に驚きました。しかし周りに集まってきた子どもたちの顔を見ると、決してそんな辛い顔はしておらず、むしろ眼の輝きは素晴らしく思いました。何をするにも、自分たちで考え、お互いに助け合っている様子を見ると、ある意味今の日本の子どもたちより幸せなのではないかと感じました。

民際オリジナルグッズの販売！

当センターが支援するタイ・ラオス・カンボジアの子どもの写真を、「2008 年カレンダー」と「絵ハガキセット」にしました。収益はダルニー奨学金に充てます。

①2008 年カレンダー 500 円

当センターのスタッフが現地への研修旅行等で撮影した写真で作製した卓上カレンダー。写真右上は 07 年の製品ですが、08 年度版は全て新しい写真を使用。サイズは 148mm x 100mm です。

②絵ハガキセット 500 円

写真家でドナーの青松秀幸氏がラオスで撮影した珠玉の作品から 6 枚（写真右下）を選びました。

お申込み：民際センター TEL: 03-5292-3260

- ①氏名・住所・TEL、購入品名と数量をお知らせ下さい。
 - ②送料込みの代金と振込先銀行口座をお知らせします。
 - ③発送は 11 月頃を予定しております。
- ★ 数に限りがありますので、ご注文はお早めに！



グローバルフェスタ JAPAN2007

恒例の上記イベントが今年も以下の通り開催されます。NGO を始めとする国際協力関連団体 200 以上のブース出展による活動紹介、アジア・アフリカ等の料理や民芸品販売など盛り沢山の内容。

当センターも出展しますので、是非お立ち寄り下さい。08 年民際カレンダーや絵はがき、ハンディクラフト他も販売します。なお、タイやラオスで購入したお土産で余っているものがあれば、当ブースで販売して奨学金にしますのでご寄贈下さい。

日時：10 月 6 日（土）・7 日（日）

両日とも 10:00～17:00

会場：東京都立日比谷公園

テーマ：家族と地球 入場無料

詳しくは <http://www.gfjapan.com/>

協 力 企 業 紹 介

一人ひとりの小さな気持ちを大きな力に

東京ガス株式会社 広報部 社会文化センター

東京ガスでは、社員のボランティア活動支援として、活動の「きっかけづくり」となる情報や活動の場を提供しています。「誰かのために何かをしたい」という気持ちを持ってボランティア活動に取り組むことによって、一人の人間として、心と人間性を成長させるとともに、自らが地域社会の一員であると認識し、良き一市民として地域社会に貢献することができると考えております。

一例として、クリスマスを病院や施設で迎える地域の子どもさんを中心とした方々に「手づくりのクリスマス」をお届けする「サンタプロジェクト」(写真右)という活動を2003年度から行っています。これは関係会社を含む東京ガスの関係者(オール東京ガス)によるボランティアイベントで、サンタクロースに扮した社員が病院や施設を訪れ、手づくりのクリスマスカードやクッキーなどをプレゼントしています。

「ダルニー奨学金」には2003年度から協力させていただき、現在ラオスの9人の子どもたちの支援を続けています。この活動については、社内イントラネットにより社員に広く周知するとともに、今年度はオール東京ガスボランティア情報誌『Join us! (ジョイナス)』でも協力の呼びかけをしたところ、たくさんの善意が寄せられました。



『Join us!』はオール東京ガスの各職場はもちろん、当社を退職したOBにも届けられており、記事を読んだOBからもたくさんの書き損じハガキ(写真左)が送付されてきました。

「国際ボランティア」というと何か大きなことをしなければならぬのではと身構えてしまいそうですが、「ダルニー奨学金」のよいところは、たった一枚のハガキでも、それが250枚集まれば一人の子どもを一年間就学支援ができるという取り組みやすさにあるのだと思います。また、この点が支援をしていく上で継続のしやすさにつながっているのだと思います。何より支援している子どもたちのかわいい写真が毎年届くので、子どもたちがスクスクと成長する姿が分かり、遠く離れた日本からでも支援の楽しみが持てるところもよい点だと思います。

一人ひとりが持ち寄った小さな気持ちを、大きな力にできるのが企業によるボランティア活動の強みです。これからも、オール東京ガスで働く人々の「誰かのために何かをしたい」という気持ちを形にする活動を続けていきたいと考えております。



センターだよりの効力で支援の輪が拡大

東京電力TEPCOボランティアセンター

東京電力TEPCOボランティアセンターでは2002年度よりダルニー奨学金へのはがきの収集活動を行っています。書き損じ・未使用のはがきの収集は年間を通して受付けていますが、2006年3月当ボランティアセンターの活動の報告と今後の協力をお願いするため、「TEPCOボランティアセンターだより」創刊号にて、これまで支援してきた奨学生の写真を、奨学生から頂いた感謝のメッセージと共に掲載致しました(写真下)。



その結果、ボランティアセンターだより配布後わずか4ヶ月で6,000枚、最終的に2006年度に寄せられたはがきは9,500枚に上りました。更に未使用プリペイドカード提供も加えると、昨年度タイの奨学生2名に対する支援から、タイ・ラオス合わせて39名の子どもの支援が可能な枚数を寄附させて頂くことが出来ました。

タイの子ども1名の1年間の就学(はがき250枚)からスタートした支援も、5年目をむかえ、社員への認知度の高まりと共に、支援の輪が大きく広がり、大変嬉しく思っています。

寄せられたはがき(写真下)は、個人の方々からの未



使用及び書き損じた年賀はがきがほとんどです。「支援している相手が見える」ダルニー奨学金だからこそ、多くの社

員の賛同を得られたのではないかと思います。

今後も、多くの社員、更にOBや関連企業の方々にもPRし、「勉強がしたい」「学校へ行きたい」と願っている子どもたちの就学のお手伝い出来るよう、頑張りたいと思います。

■ 20 周年特別企画・11 月タイ研修旅行 ■

ダルニー奨学金の原点・ウドンターニー訪問と 20 周年記念式典への参加

11 月タイ研修旅行は、ダルニー奨学金の原点であるウドンターニー県のダルニーちゃんが住んでいた村を訪問します。20 年の間に、村はどのように変化したでしょう？その時の奨学生は今どうしているのでしょうか？

また、バンコクで開催の「20 周年記念式典」にも参加していただき、タイで奨学金を支えて下さっている政府・教育関係者や支援者、奨学生と歓談していただきます。この記念すべき研修旅行にぜひご参加いただきますようご案内いたします。

～★～☆～★～☆～内 容～☆～★～☆～★～

- 11/18(日) 午後、成田→夜、バンコク
- 19(月) 午後、バンコク→ウドンターニー
- 20(火) バン・タリンチャン村訪問(2泊3日)
- 22(木) バンコクへ戻る
- 23(金) 20 周年記念式典参加
- 24(土) 朝、バンコク→午後、成田

★村での活動(村人宅に宿泊)

- 学校 歓迎式、奨学生面会、奨学生宅訪問、授業参観など
- 村 歓迎の儀式「バイ・シー」、生活体験(例：機織、籠編み)、文化交流会など

★20 周年記念式典(バンコク市内ホテル)

- 1 部 教育についてのシンポジウム
- 2 部 20 年の活動を振り返るビデオなどを見ながら会食

実施要領(予定)

日 程：2007 年 11 月 18 日(日)～24 日(土)
訪問地：タイ・ウドンターニー県及びバンコク
参加費：1 人 170,000 円(成田からの往復航空券、団体での全交通費・宿泊費・通訳費、保険料。但し、航空券に付帯する空港使用税、航空保安料、燃油特別付加運賃は含みません)。
他に、バンコク集合コースもあります。
資料請求方法(9 月 30 日締切)
郵便：ご自分の宛先を明記し、80 円切手を貼付した返信用封筒を同封の上、事務局までご請求ください。
電子メール：info@minsai.org まで、メールタイトルに「タイ研修旅行」と書いてご請求ください。資料は電子メールで送信します。



短い滞在を終え、村を立つ日。「ありがとう」「頑張ってるね！」「一人一人の子とも違ってお別れの挨拶をします」

◎式典のみ参加ご希望の場合は、直接事務局へお電話ください。(TEL:03-5292-3260) 本田・富田

♪ ♪ 第4回チャリティーコンサート ♪ ♪

長年ドナーでヴァイオリニストの小谷公子さんが、今年もチャリティーコンサートを、音楽仲間と一緒に開催して下さいます。今回はハープ奏者として名高い篠崎史子さんも参加！収益金はダルニー奨学金に充てられます。

日時：2007年10月7日(日) 14:00開演(13:30開場)
場所：めぐろパーシモンホール小ホール(東横線都立大学駅から徒歩7分)
チケット代金：2,990円

第1部出演者

ヴァイオリン：小谷公子(元相愛大学講師/写真左上)
ハープ：篠崎史子(桐朋学園大学特任教授/写真右上)
ピアノ：岡田春恵(桐朋学園大学卒/写真左下) [第2部も出演]
♪ 演奏曲：メロディ(チャイコフスキー)、ROKUDAN(黛敏郎) 他

第2部出演者

歌：藤原のり子(東京芸術大学音楽学部声楽科卒/写真右下)
♪ 演奏曲：日本のなつかしい歌曲集(赤とんぼ、ペチカ他)



お申し込み：日本民際交流センター TEL: 03-5292-3260

来年 1 月、タイ東北地方に自転車旅行

タイ東北地方の子ども達と交流しながら自転車教室を開催

2005 年 5 月より民際センターに諮問委員として勤務しています児玉忠弘です。民際以前は、ブリヂストンサイクルで社歴 37 年です。同年 5 月末に、秋尾代表の勧めで始めてタイ東北地方にタイ事務局スタッフと出張しました。最初の土地がムクダーハーン県でした。そこで、夏の炎天下、子ども達が遠路 2km 以上の道を裸の足で登校していました。そのとき、彼らの登校姿を見て「子ども達に便利で快適な自転車を提供したい」と強く思いました。さらに、自転車を提供する際に日本人の自転車店に協力してもらうことで、自転車の修理技術や自転車の歴史等を理解してもらえれば、自転車を大切にするのではと思いました。そこで、その年の 11 月と今年の 2 月にノンカーイ県で自転車の提供を兼ねた自転車旅行を実施し、今年の 2 月の旅行では参加者は 12 名に及びました。旅行のテーマは英語で「Rides the FUTURE」、即ち「自転車に乗って、明るい未来を」でした。



タイブリヂストンの贈呈式（スリン県）

また、私の出身であるブリヂストンの縁で、昨年に続き今年もタイブリヂストンが東北部のシーサケット、スリン、ブリラム 3 県の中学生に奨学金と自転車を提供しました。今年は 300 名分の奨学金（A タイプ）と 300 台の新車（タイ製自転車：アフターサービスと地元の産業振興も兼ねて）です。7 月には各県で贈呈式が行われ、県知事や教育関係者が参列しました。子ども 100 名が自転車に乗って一斉に教育会館内の広場を走行。その姿は迫力満点でした。なお、同社は 2011 年まで毎年、東北地方の生徒に毎年 300 名の奨学金（A タイプ）と 300 台の自転車を寄贈予定です。奨学金は全体として未だ不足状態で、自転車もそれを必要とする生徒の 20% 程度が所有しているのみです。このような状況を少しでも緩和するために、第三回の自転車教室研修旅行を来年 1 月ルーイ県で行う予定です。詳しくは、児玉忠弘、または本田までお問い合わせ下さい。

ダルニードナーで作家の阿刀田高さん率いる「朗読 21」が講演と朗読の会を開催

● 講演 ヒーローはなぜ勝つか 阿刀田 高

● 朗読 山本周五郎「夜の辛夷」^{よる こぶし} 阿刀田慶子
藤沢周平「暗黒剣千鳥」 中村 敦夫

鴨下信一 演出

● テーマ
失われた時を求めて
読書の時を取り戻す

■ 公演日時

10 月 9 日 (火) 夜 6 時 30 分開演

10 月 10 日 (水) 昼 1 時 30 分開演

夜 6 時 30 分開演

10 月 11 日 (木) 昼 1 時 30 分開演

■ 会場 内幸町ホール (JR・地下鉄新橋駅 5 分)

■ 料金 4,000 円 (全席自由・当日券若干あり)

■ チケット申し込み & お問い合わせ

「朗読 21 の会」事務局

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 518 司ビル 301

TEL:03-5292-4677 FAX:03-5292-3510

「朗読 21」は 7 月より民際センター事務局の一角に事務所を置きました。



阿刀田 高



阿刀田 慶子



中村 敦夫

前売り開始は 9 月 3 日より

ラオス小学校建設 20・21 校目が完成 さらに 2 校着工予定

学校建設事業を開始以来、くしくも当センターの創立 20 周年にあたる本年、累計 20 校目と 21 校目の校舎が今秋にもカムアン県で竣工予定です。さらに、となりのサワンナケート県で年内に 2 校を着工する予定です。ラオスの子どもたちのための教育機会、教育内容、教育環境の向上を総合的に取り組む中で、良い環境と品質を持った子どもたちのための学校づくり、村人や先生が建設や管理に参加できる学校づくりを目指してきました。このような学校づくりは、もちろんそこで学ぶ子どもたちに直接役立ちますが、さらに、どのような学校建設事業が子どもたちや地域にとって役に立つのかという観点からモデル事業となり、ラオスの学校建設全体の質を高めています。



民際センター 20 周年記念

■■ ドナーの集い ■■

第1部 20周年記念の集い:ダルニー奨学金のきっかけとなったダルニー・シーラオ (写真右) などのタイ元奨学生やラオス初代奨学生が来日し、卒業後の人生行路などについてのスピーチをします。また、各界ご来賓のスピーチ、秋元タイ舞踊団によるタイ舞踊、バイオリニスト小谷氏による演奏などを予定しています。



第2部 懇親会 (立食形式) :各界ご支援者、元奨学生、弊センタースタッフと交流を深めていただこうと計画致しました。

【日時】 11月30日 (金) 18:00~

【第1部】 20周年記念の集い 18:00~19:30

参加費:1,000円 定員200名

【第2部】 立食パーティ 19:30~21:00

参加費:3,000円 定員200名

【会場】 JICA地球ひろば講堂 (東京都渋谷区広尾4-2-24)

東京メトロ日比谷線 広尾駅下車 (A3出口) 徒歩1分

【申込先】 弊センター「20周年記念イベント係」

Tel: 03-5292-3260 Fax: 03-5292-3510 email: info@minsai.org

【申込手順】 先ず、お名前、ドナー番号 (ドナー以外の方も参加可)、住所、電話番号、参加人数の他、①1部参加 ②2部参加 ③両方の部に参加、についてお知らせください。次に、参加費を、三井住友銀行・高田馬場支店・普通口座 4295392 (口座名義:ニホンサイロウリュウセンター ダイキョウ アキオテルマサ) にお振込みください。★ご入金確認後、領収証兼「当日入場チケット」をお送りします。

【締切】 11月23日 (金)

(注意) 一度お振込み頂いた参加費は返却できませんので、予めご了承ください (ご本人が欠席の場合は代理の方が参加できます)。

チャリティ・タイ語講座 11 月開催決定！ 受講者募集！

เตรียมภาษาไทยกับคุณนิพัทธ์เพื่อการตลาด:

ダルニー通信 46 号で紹介された今年 1 月開催のチャリティ・タイ語クラスの記事を読んだ方から、参加したい旨の熱烈メールがありました。講師のスニサーさんをお願いしたところ、クラス開催が以下の通り決定しました！ タイ奨学金を支援する方やタイ東北部研修旅行に参加する方、この機会に是非、参加しませんか！

日時: 2007 年 11 月の毎週日曜日 13:00~14:00 11 月 4 日、11 日、18 日、25 日の 4 回。

場所: タイランゲージアカデミー <http://www.tl-academy.com>

新宿区西新宿 8-14-17 アルテール新宿 301 地下鉄丸ノ内線「西新宿駅」から徒歩 2 分

受講料: 7,000 円 (資料コピー代 & 施設利用費含む)。別途テキスト「今すぐ話せるタイ語入門編 Ver.2」(水野潔著 東進ブックス 1,800 円 + 税) を事前に書店等で各自購入してください。ちなみに受講料から必要経費を差し引いた金額が、ダルニー奨学金になります。

定員: 10 名 (先着申込み & 受講料前納入済順)

講師プロフィール: カセサート大学日本語学科卒。元・タイ商工会議所大学人文学部日本語講師。慶応義塾大学言語学博士号取得。東京外国語大学と城西国際大学でタイ語講師

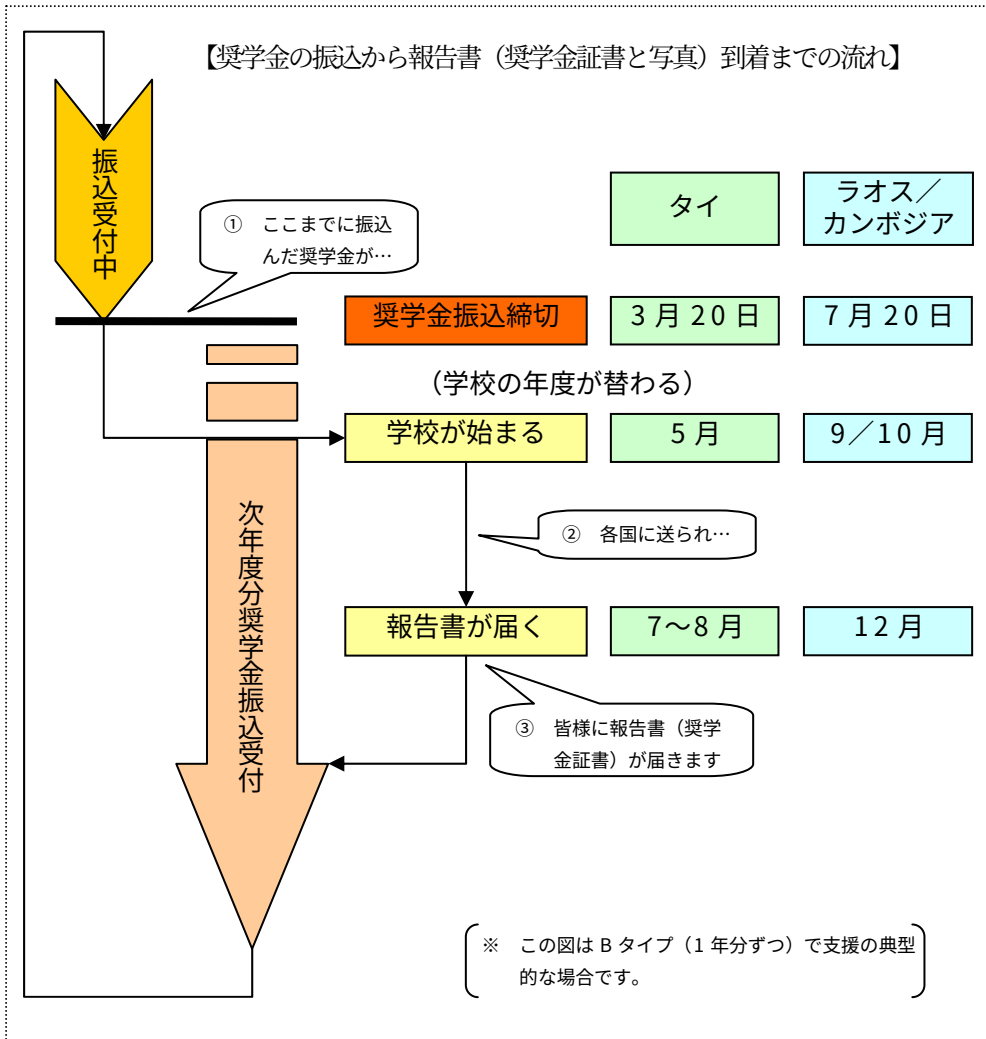
内容: 基本文型を学び、発音に注意しながら実践会話を練習

申し込み先: 日本民際交流センター チャリティ・タイ語係 TEL: 03-5292-3260

Email: info@minsai.org ⑤メールでのご予約の際は、件名にチャリティ・タイ語と必ずお書きください

ダルニー奨学金システムの基本をおさらい

皆様から多くいただくお問い合わせの中から、今号では報告書（奨学金証書と奨学生の写真）の発送時期のご紹介をします。



Q

奨学金証書が届きましたが、これは請求ですか？

A

奨学金証書は、請求書ではなく、前年度お振込みくださったものに対してご報告を差し上げるもので、証書はむしろ領収書に近い性質のものです。

Q

奨学金証書はいつ届くのですか？

A

同じ時に振込んだものでもタイとラオスでは奨学金証書の届く時期が異なります。Aタイプ（3 年分一括）でご支援くださった場合、振込は 1 回でも奨学金証書は 3 年間お送りします。

サワディー、民衆ボランティアです。

リタイヤ後のボランティア、気持ちを込めて

岩堀 武



ボランティア初出勤は 02 年 12 月でした。その半年前の 5 月にリタイヤして趣味活動だけではなく、何かお

役にたてることはないかと思いを巡らし、民衆セクターへ出かけました。ダルニー奨学金のことは 90 年の新聞記事で知り、タイ人の友人がいたこともあり、すぐ申し込み、以来少ない額ですが続けています。会社勤めをやめるとその対応には限度があります。事務のお手伝いならできると思っただけでした。

多くの方々から送られてきた書き損じハガキ、切手、テレホンカードなどの整理は単純作業であり、少ないスタッフの方々が担うことではないと思います。月に 1、2 回ですが気持ちを込めて取り組んでいます。中学生をはじめとする生徒、学生さん、社会貢献活動が着実に進む企業に働く皆さん、所属する団体の活動の一つとして取り組む皆さん、そして求める人たちに少しでも援助したいという個人の尊い気持ち、枚数や金額の多少を問わず、タイやラオス・カンボジアの子どもたちに無事届くようにと。

自分自身の健康維持に努めて、出来るだけ長く続けていきたいと思います。

連絡会ニュース

民際センター事務所に登録しているドナー連絡会は 60 を少し超えるぐらいです。紙幅の関係で、そのうち設立 2 年以上で、かつ活発な活動を展開している 8 つのダルニー連絡会の世話人に「20 周年によせて」と題して、これまでの活動の思い出や今後の抱負などについて書いていただきました。

●**新潟ドナー連絡会**：見覚えのない差出人の英文手紙と写真がタイから届いた。最初の奨学生のトムだった。バンコク南の町の日系企業で会計の仕事をしているという。二人目の奨学生も近在の日系企業に就職していた。二人の実家であるヤソトーン県を遙か離れ、彼女たちの日本への憧れをこういう形で実現している事に驚くと同時に、時の早さに唖然としているこの頃なのだ。（世話人 赤石隆夫）

●**尼崎ドナー連絡会**：私達の連絡会は民際の設立 15 周年の年にスタートし、その記念特大号が始めての通信情報でした。早くも今年はダルニーグループの 20 周年という事です。改めて連絡会としての抱負を持ちたいと思っています。民際の里親制度はやり甲斐のある教育支援！今後とも頑張っている子供達に多くの夢をつなげてあげたいと思います。（世話人 仲本恵美子）

●**遠州ダルニー連絡会**：民際交流センター 20 周年おめでとうございます。ダルニー奨学金に関わりあって早くも 7 年目になります。その間に夫婦で関わりあった奨学生は 12 名となり、毎年訪れるイサーンでは子供達の成長ぶりと町や村の変化の早さに驚かされます。民際の活動がさらにステップアップし、活動の輪が広がることを祈念いたします。（世話人 畑寛和）

●**板倉友の会**：私はラオスへの研修旅行に 2 度参加した。初めてのときは貧しくも心豊かに生きる人々に接し、言葉もよく分からないのに一緒に笑いあったりして、とても居心地がよかった。それをきっかけに奨学金を送り始め、2 度目は本人と親御さんと話ができ。いずれも想像以上、期待以上の経験だった。民際グループ 20 周年、おめでとうございます。今後も私たちの“気持ち”の橋渡しをして下さい。（会員 久米村恵子）

二十周年に寄せて

●**佐久平ドナー連絡会**：民際 20 周年おめでとうございます。タイ勤務時にダルニー奨学金とかかわ

わって 12 年になりました。帰国後、佐久平ダルニー連絡会を 2001 年に立ち上げ、20 名を越す楽しい仲間たちと活動しています。今まで何人の奨学生とかかわってきたのか数えたことはありませんが、教育支援がその地域の将来に必ず役に立つと信じて活動しています。他の連絡会の皆さんとの交流も楽しく、「明るく」「楽しく」「元気よく」のモットーで活動しています。（世話人 柳澤光一）

●**ダルニーほほえみの会**：20 周年に当たり、当会が出している会報 18 号に掲載したタイ事務局（EDF）のエイク氏からコメントをもらいました。このコメントが私たちの思いを伝えていると思うので、以下に引用します。「ダルニー奨学金により 22 万人以上の恵まれない子供達が学校に通う事ができました。しかしイサーンにはまだなお多くの貧しい子供達がいいます。・・・全ての子供達に通学の機会をと考えています。実現させるには日本の皆様からのご支援が不可欠です。引き続き更なるご支援をお願い申し上げます。皆さん、一緒にがんばりましょう。（世話人 渡辺幸男）

●**はじめのいっぽ**：連絡会に関わることで、多くの方と知り合えたと思います。事務局の方・奨学生をはじめ、書損じの年賀状を毎年送ってくださる方、「はじめのいっぽ」の交流会に必ず出席してくださる方などなど、ほんとうにたくさんの「あったかい心」に触れることができました。このつながりを大切にしながら、これからも活動を続けていこうと思います。（世話人 三好由美子）

●**甲府ドナー連絡会**：民際 20 周年おめでとうございます。甲府のドナーの集まりは山梨英和中・高生の民際センター主催のタイ研修旅行参加者の報告と県立ろう学校生徒会の支援活動報告を中心に行ってきました。若い人々がアジアに、又それに引き続き世界に目が向けられ、日本の将来を逞しく担う姿に感銘をおぼえます。混迷を深める国際情勢の中で日本の将来を考えると、民際の果たす役割がますます大きいことを思います。（世話人 榎本富美子）